

令和7年度 農山漁村振興交付金(農福連携型)
事業実施主体 評価一覧

1. 事業評価の実施

令和7年度に実施された農山漁村振興交付金 地域資源活用価値創出対策のうち地域資源活用価値創出推進事業(農福連携型)及び地域資源活用価値創出整備事業(農福連携型)の事業について、「農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知)」の別記5の第10の2の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 事業評価結果の総括

令和7年度に交付金事業を実施した中国四国内の11地区のうち、評価対象である3地区について、取組の実施状況、成果等を総合的に評価した。
その結果、優良と認められる地区が3地区の評価結果となった。

3. 各地区の評価結果
3件

農政局等	都道府県	市 町 村	事業実施主体名	事業実施段階								評価	評価コメント
				R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8		
中国四国	岡山県	美作市	特定非営利活動法人美作自立支援センター					●	● ★	■ ◆		A	令和7年度は、トマトハウスの高温対策や経営分析の実施を通じて、生産体制の維持・改善に取り組んだ。また、これまでに整備した施設や販売体制を活用しながら、障害者が継続して農業に従事できる環境づくりを進めている。一方で、障害者等の雇用者数、売上高及び交流人口は目標を下回った。その主な要因はトマトハウスの建設遅延に伴う収穫開始時期の後ろ倒しによるものである。現在は新規ハウスでの収穫が開始され、生産及び販売体制の強化が図られているほか、今後の売上向上も見込まれている。障害者の就労機会の創出と地域農業の維持・発展に向けた取組を着実に推進している。以上のことから、優良と評価する。

中国四国	広島県	尾道市	特定非営利活動法人COR					● ★	●	■ ◆		A	令和7年度は、利用者の作業体制及び指導体制の構築、販売ルートの拡大、ハウス灌水指令システムの整備を計画どおり実施し、安定した生産・販売体制の構築に取り組んだ。また、障害者等の就労者数は10人となり目標の2倍を達成するとともに、見学や農作業体験の受入れにより交流人口も39人となり、目標を大きく上回る成果を上げている。障害者の就労機会の創出と地域との交流促進を図りながら事業を着実に推進している。以上のことから、優良と評価する。
中国四国	愛媛県	四国中央市	大王製紙保安検査システム株式会社					●	● ★	■ ◆		A	令和7年度は、植物工場の本格稼働により障害者5名の雇用を実現し、目標を達成している。あわせて、水耕栽培技術の習得に向けた研修や広告宣伝を計画どおり実施するとともに、販路開拓のための説明会を計画の3回から6回へ拡大して実施するなど、積極的な販売促進活動を展開し、今後も既存販売先への安定供給や新規販路の開拓を進め、障害者の就労機会の創出と地域との交流促進に取り組んでいる。以上のことから、優良と評価する。

(注1)「事業実施段階」の凡例：ソフト対策 ○…交付対象年度(計画) ●…交付対象年度(実施済) □…目標年度(計画) ■…目標年度(実施済)
ハード対策 ☆…交付対象年度(計画) ★…交付対象年度(実施済) ◇…目標年度(計画) ◆…目標年度(実施済)
重点指導 ▼…重点指導(通知) △…重点指導(結果報告予定) ▲…重点指導(結果報告)

(注2)「評価」の区分： A…優良 B…良好 C…低調 評価対象外…評価対象外

4. 第三者機関の意見聴取

農山漁村振興交付金(地域資源活用価値創出対策)実施要領(令和4年4月1日付け3農振第2921号農林水産省農村振興局長通知)別記5の第10の3の規定に基づき、第三者機関である「農山漁村振興交付金(都市農村交流等)評価委員会」を組織し、評価に当たり意見の聴取を行った。評価委員会の委員及び開催概要は以下のとおり。

【評価委員会 委員】

委員長：駄田井 久(岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域准教授)

委員：木村 京子(香川県農業協同組合 五名女性部部長)

委員：弥勒院 琢磨(株式会社農協観光 四国支店 地域共創課長)

【令和7年度評価委員会の開催概要】

第1回評価委員会

1 日 時 : 令和8年8月19日(水) 13:30～15:00

2 場 所 : 中国四国農政局4階会議室

3 議事概要

① 令和8年度評価対象地区の評価方法について

本年度の評価方法について、説明を行い了承を得た。

② 令和8年度評価対象地区の評価及び取組状況について

令和7年度に事業を実施した11地区及び農福連携型全体について、質疑応答を行った。各委員からの助言・コメントを委員会の助言・コメントとして意見集約した。

4 主な意見

【評価内容】

・各事業実施主体において、生産・販売体制の整備や雇用環境の充実が進められ、障害者が地域農業の担い手として活躍する環境が着実に構築されている。また、農業活動を通じて地域住民との交流や社会参加が促進されることで、障害者の自己実現やウェルビーイングの向上にも寄与している。

・様々な努力で障害者が継続して農業に従事出来ることは農業の維持に大変貢献している。

・どの事業実施主体も雇用数は概ね目標をクリアしており、それが障害者の雇用維持と地域農業の維持・発展に貢献している。

【課題と今後の取組に向けて】

・福祉の視点からも評価を行ってほしい。

・地域との交流で理解者を益々増やし、農業の発展に繋げて頂きたい。

・売上高についてはいずれも達成できていないため、今後は仕事の量や品質を改善し、高付加価値化による収益改善が望まれる。